

2019年度

No11 1月23日

松 籟



発行者

穴水秀人

スマホ（SNS）について思う

先日、小中合同学校関係者評価委員会が開催され、今年度の学校教育活動の様子を振り返るとともに、学校運営に対するアドバイスをいただきました。和やかな雰囲気の中で、たくさんのお話を提供していただきましたが、その中で一番盛り上がった話題が『SNS』でした。その根拠となったデータが、「生徒携帯電話（スマホ）所持率：約70%、その内、使用に関してルールを決めていない家庭：約2割」というものでした。『ラインを使用しているときは、人格が激変したのかと思うくらい言葉遣いが悪い。』『暇さえあれば画面を見ている。』『eスポーツという分野がオリンピックの種目に入るらしいが、本当に大丈夫か。』等々気になる課題を出席者間で共有することができました。さらには、数ある依存症（アルコール依存、薬物依存、ギャンブル依存等）において、社会で一番問題になっているのが『インターネット・ゲーム依存症』であり、患者数が激増しているとの情報も伝えられました。

世の中に目を向けてみると、スマホの便利な機能の一つである会員制交流サイト（SNS）を悪用した犯罪が後を絶ちません。昨年末、大阪市内で行方不明となり栃木県小山市で保護された小6年女児も、未成年者誘拐容疑で逮捕された30代の男とは、「SNS」で知り合ったということです。非公開でやり取りができる「ダイレクトメッセージ」を使い、偽名で接触、住所や年齢を聞き出して女児に会いに行き、自宅に連れ去りました。女児の母親は、時々スマホをチェックしていたものの、「ダイレクトメッセージ」には気付かなかったようです。厳しく言えば、保護者側の「SNS」に関する知識不足も、容疑者に乗じる隙を与えた面があるかもしれません。

昨年、「SNS」を通じて犯罪被害にあった18歳未満の青少年は1800人余りで、被害者の9割が中高生ということです。それにしても、なぜ「SNS」に不用意に投稿したり、見知らぬ相手を信用してしまうのでしょうか。思春期には、家族や友人関係に悩むことが多くなり、家庭や学校では話せない悩みや本音、孤独感なども、ネット上なら言える、相談に乗ってもらえるといった声も聞こえます。「SNS」が悩みのはけ口になっているということでしょう。まず大切なことは、私たち大人が、生徒たちに真摯に向き合い、誰もが安心して過ごすことができる「居場所づくり」に取り組む必要があると思います。また、学校はもちろん家庭でも、「インターネット」や「SNS」の危うさを継続して教えていくことだと思います。「スマホを使わせなければよい」という時代ではないということは承知しています。保護者の皆様と協力し、この大きな課題に立ち向かっていきたいと思っています。